

「2年前に60歳、還暦を超え一周まわって今感じること No.4」

吉塚ゆりの樹幼稚園 園長 高杉美稚子

最近、よく私が使う言葉があります。「私は今、62歳 4月から63歳になる年だから62歳児よ。」
ちょうど覚える量も、考えるスピードも、持てる量も、職員や周りから配慮してもらう内容も、2歳児と同じくらいに感じる私があります。だから、「私は今、62歳児よ」、なんです。

そう思うと、「人生一周まわって、もう一度幼稚園に入園して生まれ変わって、人生もう1回チャレンジだあ💎」とわくわくした気分になります。人生は、生きることは常に未知数の出会いです。
また一周回って新しい旅の始まりです。

ずいぶん前になります、15年前くらい前にこんな文章を見つけました

——「旅」と「旅行」の違いについて——

他人の経験をなぞるのが旅行で、未知のものを見つけるのが旅。
快適、安全、能率を追求するのが旅行で、骨折りをいとわず偶然性を楽しむのが旅。
車のガラス窓の向こうに風景が通り過ぎるのが旅行で、風景の中に肌身をさすのが旅。
金で買うのが旅行で、金で買えないのが旅。—————



私は、この文章を読んで、「人間の生き方」について考えさせられました。
まさに、人生を旅行ではなく「旅」のごとく生きる事が人としての人生の
生きざまではないか...と。 幼い一人一人の子ども達も、これから長い
人生の 旅立ちを迎えるわけですが、良い旅のためには、良い旅仕度が
不可欠のように、子ども達の豊かな実りある人生の旅仕度の期間が、
今まさに、幼稚園の時代ではなかろうかと思えます。
そして、全ての子ども達が旅仕度を終えてから、旅立つのではなく、
すでに、その子どもなりの旅は始まっていると考えなくてはなりません。

個性の違う子ども達にとってそれぞれの旅の仕度は違うでしょう。違うから又おもしろくもあるのです。ですから、集団生活に入れて、親自身がさせる事が一番マイナスです。 色々な事を子どもの為に考え、その発達の為の環境作り、雰囲気作りは、お母さん、お父さんの役目です。そして、子育ての仕方に正解はありません。色々な子育てがあって当然という心持ちで、楽しみながら育児をしていけたら、親も子どもとても幸福な事だと思います。

そのそれぞれの個性や育ちの姿を大切にしながらも、集団教育において等しく
仕度しなければならないものもあります。
それは、「自立」と「思いやり」の心です。
これは、まさに幼児期にしか育まれない心情でもあります。
そして、現在の核家族化、少子化傾向の中では、集団教育の中でこそ
培う事が出来る心情です。いくつになっても、回りの人的、物的環境を考え
しっかりと自立し、いかに自己教育出来る「自分育て」が出来ることが大切だと考えます。親子共に自立への道「自分探しの旅」
は今始まったばかりです。これからも子育てと共に「自分育て」も頑張りましょう。



「子ども達にとっての本当の幸せとはなにか」「幼児のその年齢に不可欠な事は何か」を常に
見すえながら、子ども達が今も素晴らしく、未来も素晴らしい「人生の旅」をどうしたら持つ事が
出来るかを、保護者の方と手を取りあって、真剣に今年度最後にも共に考えていきたいと
考えております。人間の存在価値といった視点から、又、共に子育ての大切さと楽しさを
感じながら。

そして旅を前に、期待しすぎるのも人間、不安になるのも人間、行った先を後悔するのも人間です。

私はよく「ポジティブですねえ。めっちゃ明るいですねえ」とか「不安なんてないでしょう」「悩まないでしょう」とか言われますが、
とんでもありません。私も、よく期待し過ぎて悲しくなり、不安に押しつぶされそうになったり、何度こっちがよかったかなあと
後悔するか、いくつになったら、不安や後悔から解放されるのかと思えます。
成長は足元から自分の頭に向かって体に巻き付いてぐるぐる回っているような、見えないスパイラル曲線。だから自分では
よく見えません。15歳の時30歳の人が見えたのに、自分がその年になったら、自分をその年齢の大人とは思えない、
そう感じる事ができない、「えー私、あの時のあの憧れの人の年になっているの?」という感覚と同じです。



だから、なかなか自分が成長していることには気づけないのですね。
私も強く見えますが、振り返ってみれば、気が小さい、怖がりの臆病者ですから緊張感や、精神的な強さを試されるようなときには、肩ひじ張って背伸びして、強く構えていないと、立ってられない私がいただけなのです。

「超ポジティブは超ネガティブなのではないか」と思います。
人間は、みんな不安なのです。みんな後悔するのです。
「だって人間だもの…あいだみつを」です。
そして、新しいことにチャレンジしている限り、不安と後悔はつきものではないかと思うのです。不安になるのは、チャレンジしている証拠です。

ネガティブだからポジティブであり続けようとするのですね。自分自身を見失わない為、なりたい自分に気づく為にも、その行動が必要な時期もあります。最初から、自分を受け入れている人は、ポジティブにもならず、ネガティブにもならず、「まあ、そんな時もあるか」と、ゆうゆうと構え、前に出たら前に出る必要があった。後ろに引いてしまったら後ろに引く必要があった、と今自分がいる位置を受け止め、どちらにもぶれずに、そこにそのまま悠然といえることができるのだと思います。

27歳で園長になった時に、ある社長さんに私はこう尋ねました。「私は気が小さいのに気は強いんです。気が強ければ、気が大きければいいし、気が小さければ、気が弱ければこんなに悩まないのに…だから不安がいっぱいで、後悔するし、臆病で、怖がりで、こんな私が園長をやっているのでしょうか」と。その時こう言われたのです。

「気が大きい人は用心しないので、失敗する、気が小さいから慎重に物事をすすめられる。人に気配りができる。気が弱い人は決断できないから人から信用されない、気が強いから、人を引っ張っていく覇気と勇気と決断力がある。だから気が小さくて、気が強いことは、よいことです。幼児の命と教育を預かる園長には最適な性格ですよ」と。



私は心から感謝し、この言葉を刻みました。そして、「園長50%、母親50%でがんばります」と伝えたらこういわれました。「園長50%、母親50%な人なんて誰もいない、園長100%、母親100%でないと、納得しない、がんばりなさい」と。私が「園長100%、母親100%で頑張ります」と伝えと、たたみかけるように言われたのです。「頑張りますではなく、頑張ったという結果を出しなさい」と。自ら会社を立上げ、苦勞し成功されている方の言葉には説得力がありました。

そこで、私が今度決めたのは頑張る方向です。どちらに向かって進むか、ベクトルの方向を間違えないことでした。東京に行くのか、鹿児島に行くのか、選択し、決定することはとても大切なことです。方法は、徒歩でも、自転車でも、自動車でも飛行機でも、なんでもいい、自分のスピードに合わせればいいのです。

そして、決めたことは、園長、母親業、両方に必要なこと「最新教育学と、心理学を学ぶこと」でした、そして「福岡で一番の幼児教育者になる」ことでした。それから子育て業と、私の勉強が始まったのですが、新しいことを始めるたびに、不安と、後悔が巡って、巡って、それは大変な道のりの始まりでした。競争する相手は誰でもない自分自身であることに気づいたからです。

気が強く、気が小さい、怖がりの、臆病者ですから、迷い道くねくね、ずいぶんと、辛く、苦しく、悲しく、情けないのろのろの徒歩でゆっくり歩んだ、いばらの道と感じた道のりであった気がします。だからこそ、ゆっくり、自分の感情と向き合え、周りの景色も見れたし、人の声も聴くことができたのだとも思います。今ではそれがよかったのだと思えるのです。時が解決してくれることもあるからです。



そして、「いつも進化するゆりの樹幼稚園」が私の目標ですから、進化し続けるために、私は今も62歳児は62歳児なりの、不安と後悔を抱えていつもいます。

それは、何歳であろうとみんな同じなのではないかと思えます。

5歳には5歳なりの、20歳には20歳なりの、40歳には40歳に相応の、62歳児には62歳児なりの不安と後悔はあるのです。未来は見えないからです。

ただ、年数がたつごとにその乗り越え方を学んできたように思います。

そして、時がたつと、その不安と後悔があったからこそ、今の私があると感謝できるようになったことです。起こったすべてに「ありがとう」ですね。

後悔は、そこから多くの学びを運んできてくれたし、不安は、そこから脱するための、今、やることの目標の明確化、立案、行動変化を促してくれたように感じています。もちろんそのことに向き合いたくない時もあります。悩む時間を作りたくないために、少しの時間で、幼稚園でできる、趣味も見つかりました。ですから、不安や後悔は決して悪いことではないのですね。

不安な私でいいのです。後悔があってもいいのです。失敗してもいいのです。大切なのは、そこから立ち上がるすべをどれだけ持っているかではないかと思えます。多くの不安と後悔があった私はおかげで、多くの学びと出会うことができました。不安な私、後悔する私、怖がりの私、臆病な私に感謝です。自己肯定できない時間が長くあった気がします。だから、よかったのだと思うのです。迷ったから、ゆっくりだから多くのことを吸収できたのかもしれない。それが丸ごと、前回書いた自己受容、自分を受け入れることではないかと思うのです。



だからお母さん、お父さん、子育ては何が起きても大丈夫です。不安と共に、後悔と共に歩いていきましょう。
誰も未来への答えは持っていないのです。今、できることを、できることから、始めましょう。
スモールステップです。そして子育てに遅いことはないのです。
始めようと思ったその時からでいいのです。その時からまた、子育ての次のステップが待っています。
それが、「**今を生きる、置かれた場所で咲く**」ということなのだと思います。
新しい年度、進級、そして、小学校生活が始まります。



ゆりの樹幼稚園は、今年度も「**幼児期は、体感する事で学び、行動する事で、思考する**」という事を前提に、
「**遊びの幼稚園**」でもなく「**勉強の幼稚園**」でもない、「**その年齢に必要な直接体感保育を通して、見て、
聞いて、感じて、表現できる心と体を培う幼稚園**」である事に務めてきました。

それは、「**幼児期に感動を持って身近な環境と触れあう直接体験を十分もつ事こそが、幼児の知的好奇心を誘発し、やがて
感受性豊かな、思考力とやる気のある子どもを育てる。**」「**体感保育を通して、洞察力、先見力、判断力、実行力と心優しい
心情や地球全体を愛する広い人間愛を持ち、将来を予測し情報を分析する力を育てる**」ことが21世紀をしなやかに生き
抜いていく為にして、どんな事にもしなやかに対応できる人間になる為に、必要と考えるからです。



今後、社会で求められる人材として、一つは「**本当の意味のプロとしての自覚と専門性を持つ人**」です。
将来を見据えて、今何をしたらいいかを考え、日々邁進し、資質向上できる人が必要です。
二つ目は「**学んだことを単なる知識に終わらせず、思考錯誤体験を通して、体の奥に響く感性に裏付け
られた知恵に変えることができる人**」です。
さらに、「**他者とのコミュニケーションが図れる人**」で、個性を持ちつつ、相手と自分の心を同時に
大切にできることが大切です。

園児たちの皆さんが、これからどの世界へ進むにしても、**すべては夢から始まります。夢を持つということは目標を明確に
することです。目標を決めたら、その目標を小さく分けて、まず今日できることをできる範囲でやってみましょう。**

もし、その中の何か一つでも達成できれば、それがまた次のやる気と行動を引き起こします。
それが夢を持ち続ける為の秘訣です。明確化された夢は必ず実現します。
「**行動しないで後悔するより、行動して、失敗も成功も体感して、そこから学んで、
更に次に進む勇気を持てる人**」になってほしいものです。
人生は二度ありません。自分の為の自分自身の人生です。
他者評価ではなく自分で自分が認められる人生を送ってほしいものです。



そして私たち教師も、こんな子に育ってほしいと願い、教育する時、子ども達がどんな時代に生きていくのか、という事がある
程度予測して、教育にあたる、先見の明を常に持っていたいと思います。子ども達は、今を生きるのではなく、20年後を生き
ていく子ども達なのですから。そして子ども達はやがて教師や親と同じ年を迎えます。いつか大人になる子ども達であることを
忘れてはいけません。子どもが自分と同じ歳になった、そのとき子ども達があの先生でよかったと思ってもらえる大人でいた
いと思います。**感謝されるのは、子どもが親と、教師と同じ年になった時でいいのだと思うのです。**



また、人生とは結果ではなく、過程プロセスにこそ価値が存在していると思います。
目標を決めたら、闇雲に結果だけを評価するのではなく、皆で目標に向かって
毎日努力しているその過程(プロセス)そのものにも価値を見出すことができた
ら楽しんで、リラックスして、受け止めたら、挫折しても、また前に向いて歩ん
でいける勇気が湧いてくるのではないかと思います。
可愛い我が子と、園児たちと、力強く前進していきたいものです。

子ども達は、ご家庭での温かさで本園の教育の中で、それぞれに豊かな成長を遂げてくれました。
あの「雪折れしないという柳」のように、強くしなやかに育てと願いながら、これからもずっとずっと
見守っていきたいと思います。



最後に、卒園児の皆さん、たくさんの思い出を今年もありがとう。この幼稚園と出会ってくれてありがとう。
ゆりの樹の歴史を創ってくれてありがとう。私たち先生を育ててくれてありがとう。感動をありがとう。
この幼稚園から、いつまでも、いつまでも応援しています。
巣立っていく園児達だけではなく、これから学童期を経てやがて大人になっていく園児を見守る、
お父さん、お母さんに対しても共に、どこにいても最強の応援団であり続けたいと願っています。

いつまでも、どこにいても、この幼稚園から大きなエールを送り続けています。翼が折れそうになったらこのゆりの樹幼稚園
の事を思い出してください。そして、いつでも私達に会いに、ぞうさんの待っている玄関をぐりにきてください。
又、ここで会いしましょう。すべて大丈夫、新しい年へ出発進行ですね。

不安と後悔に効き目がある言葉を送って今年度最後の通信といたします。今年度も多くの温かいご支援と励ましの言葉
本当にありがとうございました。「いいね!素敵だね!大好き!」 また、会いましょう。

「失敗」を人生の宝にする10のヒント

どんな失敗や挫折・ピンチも、いいことに変えることができます。
それは「失敗」のとらえ方を変えることから始まります。

- (1) 挫折はスタートライン「さあ、ここからが勝負！」
- (2) 失敗は誇り「失敗はチャレンジした勇気の証、誇りを持とう」
- (3) 苦い経験は最良の教師「上手く行かない方法が1つわかった！」
- (4) 大きな壁は問いかけ「あなたは、本気で取り組むつもり？」
- (5) 試行錯誤は、道しるべ「諦めるのではなく、もう一步の努力・工夫が必要だ」
- (6) ピンチはチャンス
「失敗を乗り越えたら、スキルアップができる。ここから伝説が生まれる」
- (7) しかられることはハッピー・コール
「教えてもらえるうちが花、成長のための学びを運んでくれる」
- (8) 報われないこともエール「時間はかかるかもしれない、あきらめないでいよう！」
- (9) 悩みは出会いの始まり「解決策を教えてくれる師・友・本との出会いが待っている」
- (10) 逆境は光「この痛みや経験が今後生きてくる。そして、次に続く人の勇気になる」

あなたが学ぶ姿勢、挑戦する態度を忘れなければ、
どんなことも最後はあなたを幸せな成功指定席に導いてくれるのです。

あなたも苦しみや不安を抱えたことがあるでしょう。もしかしたら、今、現在、心配事や悲しみで、心がざわついているかもしれません。つらい思いをしているかもしれません。でもそれはごくあたりまえのことです。

そこまで大変ではなくても、生活を向上させ、今より少しでも充実した、幸せな人生にしたいと問題意識を持っているのですから、完全に満足なんて人はそうそう多くはいないことでしょ。

賢者が、語りました。

「あなたたちの人生はすべてうまくいっている。今まで経験したことも、これから体験することも……。

だから過去を悔やむことなく、未来を心配することなく、あらゆる体験を思いっきり味わい、楽しみなさい。

そのために必要なことはすべて宇宙が用意してくれて、あなたたちを見守ってくださっているよ」

それを聞いていた一人が質問しました。「では、なぜ私たちの人生は今、こんなにもつらいのでしょうか？」と。

賢者はその人たちの顔を見回し、慈愛にあふれた表情で「それは、より深く人生を味わい、喜びや楽しみを一層深く感じるために、その一見つらく思えることが起こっているのだよ。

今、あなたの人生がつらいとしても それは長い目で見るととても素晴らしいことにもなるんだよ。

なぜなら、あなたは今、このつらさを味わっているからこそ、これから訪れる人生の楽しさや喜びを一層、深く味わうことができるのだよ。

この体験があるからこそあなたは成長し、この体験があるからこそ人の痛みも理解できるようになる。

さらにこの体験があるからこそ、一層、幸せの尊さを感じることができるのだよ。

ハイキングで山を登っているときはちょっと苦しいよね。でも景色の移り変わりや草花に目を向けたり、鳥のさえずりに耳を傾けたり、一緒に歩む人と会話を楽しんだり、汗をかいた身体に水が一層おいしく感じたり、その場を楽しんでいれば 頂上まで楽しんでいけるだろう。そして頂上にたどりついたときの達成感や充実感、喜びや幸せは山がけわしければけわしいほど、一層深いものになるだろう」と聖者は答えました。

このように私たちが抱えている不安や苦しみ、悩みが大きければ大きいほど、それを解決したときの幸せや喜びは深く、学びも大きいものとなります。人生は楽しいこととつらいことがあるものではありません。

楽しいことと学ぶことがある』のです。そしてその学びはやがてあなたを至福へと導いてくれるのです。

辛いことは、より深く人生を味わい、喜びを一層感じるために起こっています。もし、不安や苦しさを感じたら、

「この体験があるからこそ、幸せを一層深く感じられるのだ」と捉えましょう。